



見頃の薬用植物

■ ホウノキ

Magnolia obovata

生薬名：厚朴
薬用部位：樹皮
薬効：鎮痛、鎮静薬



新緑の頃、大きな純白の花を咲かせる。葉は大きく、火に強いので、食べ物を載せたり包んだりする材料として用いられる。乾燥した葉に味噌や具材をのせた飛騨高山の田舎料理・朴葉味噌が有名。

■ シラン

Bletilla striata

生薬名：白芨
(ビャクキョウ)
薬用部位：塊茎
薬効：収斂止血薬



粘液質が多く皮膚や粘膜を保護する作用があり、胃潰瘍による出血などに用いられる。工芸品の糊料にも用いられる。

■ アマドコロ

Polygonatum officinale

生薬名：玉竹
薬用部位：根茎
薬効：滋養、強壮薬



角ばった茎が特徴。混同されるナルコユリは茎が円柱状。若芽を天ぷらやおひたしにしたり、生の根茎は焼酎に漬けて薬用酒にも用いられる。

■ カミツレ/カモミール

Matricaria chamomilla

薬用部位：花



古代エジプト・ローマ時代より“聖なる薬草”としてマラリヤ熱、風邪、不眠症など種々の病気に処方されてきた。茶や浴剤として鎮静、消炎、解毒を目的に用いられる。